白岳中学校２学年通信　第７号

誠　実

発行者：２学年職員
発行日：令和７年７月７日

マリーゴールド（生命の輝き）

戦争・災害に学ぶ命の尊さ

◀ 上空から見た呉空襲

▼攻撃を受け，沈没していく軍艦

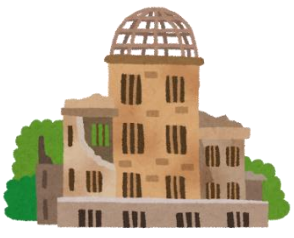
※写真はHP「呉軍港空襲の記憶 － 未来に残す 戦争の記憶」より転載
（https://wararchive.yahoo.co.jp/content/kure/）

先週の**７月１日，呉空襲**もついに 80 年目という節目を迎えました。

80 年前，日本は太平洋戦争でアメリカを中心とする連合国軍に撃退され，やがてその軍勢は沖縄へと侵入。日本各地への空襲も激化し，「戦艦大和」などの軍艦をつくり上げた日本屈指の軍港であった**呉市も，空襲の的**となりました。中でも **1945 年の７月１日，**軍事施設や民家などが広範囲にわたって爆破され，約 2000 名もの方が亡くなりました。そして，その約１ヶ月後にヒロシマの悲劇が起こったのです。

命ほど大切なものはありません。その命の重みを麻痺させ，簡単に奪ってしまう**戦争は最大の犯罪であり，最大の人権侵害**です。そして，その命を最初から大量に奪う目的で造られた**大量殺りく兵器（核兵器）**は，**絶対に許してはいけない存在**です。**戦争の記憶が廃れつつある今こそ，戦争体験の話にしっかりと耳を傾ける**必要があります。

来週の平和学習で，生の声を聞くことを通して，戦争の悲惨さや平和の大切さを学んでいきましょう！



そして，今週の**７月６日，あの西日本豪雨災害**から７年目の節目を迎えました。あの日，絶え間なく続く線状降水帯は未曽有の量ともいえる雨を降らせ，呉市を含む県内随所で土砂崩れや洪水・浸水が発生し，多くの尊い命が失われました。

※ 写真は，呉市ＨＰ「呉市復興ミュージアム『つなぐ』」より転載

私の前任校でも町内のいたる所で土砂崩れが起き，水道が遮断され大変な生活の中，生徒たちも町内の人たちと一緒になって復旧に努めました。学校が再開して集えた時の生徒たちの本当にうれしそうな笑顔は，今も忘れられません。

熊野町の山沿いに住んでいた先生の友人は，家の前を川のように流れる雨水が茶色く濁ったのを見て即座に家族を連れて非難し，助かりました。友人に「上方から流れてくる雨水が茶色く濁ってきたら危ない」という知識があったからこそ，「避難しよう」ととっさの判断と行動に移せたのです。

先々月，豪雨による黒瀬川の氾濫を想定した避難訓練を行い，その後で土砂災害マニュアルを作成して，マイタイムラインなどを確認しましたが，あれから非難道具の準備や避難所・避難ルートの確認など，実践につなげていますか？

西日本豪雨等に学ぶべきは，**防災の意識や知識を高め**，しっかり**自分の命を自分で守る力をつける**こと。そして，非常時の中で**自助・互助し，協力し合って減災・復旧に務める**こと。**中学生である自分たちに何ができるのか**，これからも「防災学習」の中で考えていきましょう！

「いのちの授業」を行いました！

７月２日，スクールカウンセラーの西先生を迎えて，「いのちの授業」を行いました。今回は，友達からの深刻な悩みを受けた時に，誰かに伝えるべきかどうかを話し合いました。友情や裏切り，自身のストレスなどいろんな意見が出て，当初の考えが変わった人もいました。「誰にも言わないで」という友達を気遣い「伝えない」ことも，逆に「このままではもっと悪くなるかも」と秘かに相談することも，友達を大切に思うからこその行為です。

ただ，相談相手だった**自分と「連絡」が取れなくなってきているのは，１つの信号**だと思われます。どうすればいいんだろうと思った時は，信頼できる人（家族・親戚・先生・カウンセラー・電話相談など）に相談するか，悩んでいる友達に相談を提案してみてはいかがでしょうか？**命を守るのは，あなたの勇気あるひと言**なのかもしれません。